

令和7年度 インターネット上の偽・誤情報等への対策技術の開発・実証事業

**デジタル情報空間における多層的意味解析と拡散ダイナミクス解明
プラットフォームの開発・実証
成果報告書 簡易版**

2026/3/19

技07_株式会社TDAI Lab

デジタル情報空間における多層的意味解析と拡散ダイナミクス解明プラットフォームの開発・実証

アプローチ
する課題
・目指す姿

•SNS上では、論理的誤謬や印象操作を伴うミスリーディング情報が増加している一方、その構造や拡散メカニズムを俯瞰的・定量的に把握する技術は要素技術の研究レベルにとどまっており、かつ従来の真偽判別技術だけでは対応が困難である。
 •本開発・実証では、大規模言語モデルによる深層の意味解釈と情報拡散分析を統合し、ミスリーディング情報の構築論理・影響を包括的に可視化する。これにより、災害時や選挙時などの重要局面において、偽・誤情報の早期検知と迅速な是正が機能する予防型の情報空間を実現し、健全な言論環境の維持を目指す。

技術区分 情報流通状況の可視化・分析

対象とする
モーダル種 文章

実施体制
(下線：技術開発主体)
(株)TDAI Lab

技術開発の取組・成果

- 意味的解釈エンジンを中核とした情報拡散分析技術を開発し、言説のナラティブ分類、論点整理、可視化を自動で行う分析基盤を構築した。これにより、数千件規模のコメントデータに対しても短時間で全体像を把握可能とした。
- 意味的解釈エンジンでは、単純なキーワード集計ではなく、言説の意図や論理構造を捉える分類モジュールを実装した。実証用ベンチマークを用いた評価により、**既存研究を上回る性能**を達成した。
- 事前にSNSデータを準備せず、特定テーマに関する情報流通状況を把握するデータなし情報拡散分析機能を実装した。これにより、速報性が求められる調査初期段階において、ファクトチェックや深掘り対象となる言説の洗い出しを効率化できることを確認した。
- ウェブ上の公開情報を基に、特定言説の信頼性や根拠状況を整理するファクトチェック分析機能を開発した。分析処理は実務上十分な速度で実行可能であり、自治体等における偽・誤情報対応の初動支援として有効であることが示された。

社会実装に係る取組・成果

- 報道機関、行政機関、企業へのヒアリングを実施。これにより、実利用者が期待するユースケースや、導入時に懸念される点を把握し、得られたフィードバックをもとに、分析方針の調整、UIの改善、結果提示の可視化方法の拡張といった機能改修を行い、懸念解消と利用現場に即した最適化を進めた。
- 実務者ヒアリングを通じ、本技術による分析結果は最終判断を代替するものではなく、根拠情報や分類定義を明示した「判断補助情報」として提供することが社会実装上適切であることを整理し、今後の精度向上および説明性強化に向けた改善方針を得た。
- 社会的インパクトの大きい社会問題など4テーマについて本開発技術を利用した分析記事を**メディアへ寄稿**。
- サービスプロバイダーへの**API連携**を通じた自治体へのサービス提供体制を実現。

技術開発及び社会実装にあたっての課題・展望

- 透明性の確保
AIの分析結果をそのまま実務で利用するのではなく、根拠となった情報源や分類ルール、分析時期を明示した「判断材料」として提示する設計が不可欠。
- 現場に即したカスタマイズ
分析の切り口は組織の業務ごとに異なるため、実務者が自身の意図を柔軟に反映できる操作性の向上が求められる。
- 分析基盤の高度化
今後はテキストだけでなく、画像や動画も対象としたマルチモーダル分析へ拡張することを検討。

代表者コメント



株式会社TDAI Lab
代表取締役 福馬智生

本事業に採択され、大変光栄に存じます。本事業では、真偽の判断が困難な論理的誤謬やプロバガンダ技法に基づくSNS上のコメントについて、その展開や波及の状況を分析し、リスク等をレポート化するシステムを構築しました。今後は、偽・誤情報対策にとどまらず、認知戦を含むさまざまなシナリオへの対応や、各事業者との連携を推進していきたいと考えております。